

消えるCD専門店

大分市中心部

大分市中心部から今月、CD専門店が姿を消す。建て替えによる大分フォーラスの閉店（26日）に伴い、同店内にあるタワーレコード（タワレコ）大分店が撤退するからだ。近年はネット通販や配信を利用する人が増えているとはいえ、専門店でCDの現物を手にしたいという人も多い。売り出し中の地元出身歌手にとっては貴重なPRの場だったこともあり、音楽愛好家やミュージシャンは撤退を惜しんでいる。

タワレコ大分店は1997年開業していた。だが2006年8月に開店。約600年ごろ相次いで閉店。同年平方の売り場に、邦楽や洋楽など約6万枚を取りそ「KJTO」の元経営者によって、ネット通販の拡大に

その後はタワレコが中心部唯一の専門店となっていた。

日本レコード協会の統計によると、15年のCDの生産金額は06年の約半分。音楽配信や聞き放題などネットを通じて音楽を聞くスタイルが普及し、全国的にもCD店が減少している。

一方で、CD店の需要は根強い。タワレコ大分店で買い物をしていた大分市の女性会社員（50）は「ネットはあまり得意じゃないので、いつもここで買っている」。

根強い需要、惜しむ声

① 記事に登場する音楽愛好家やミュージシャンにとって、CD専門店とはどんな場所だったのでしょうか。読み取ってみましょう。

② 皆さんが買い物をするとき、通販でなく実物を確認してから買いたい品物は何かありますか？挙げてみてください。

③ 専門店が近くになくなると、音楽文化は薄くなってしまいませんか。賛否どちらの意見でもいいです。根拠（理由）を挙げながら論じてください。

ネット通販や配信増加



大分フォーラスの建て替えに伴い閉店するタワーレコード大分店。大分市

「」。同市内の男性（61）は「専門店が品数が豊富。知らなかった良いCDや音楽に出合え、選ぶ楽しみもあった」と話す。

同店は地元出身のアーティストを紹介するコーナーを常設。無料のミニライブを聞くなどミュージシャンが育ち、ファンと交流する場でもあった。白杵市出身の歌手「中村慎吾さん（26）」は「偶然、通りがかった人にも自分の音楽を知ってもらえる場所だったのに」と撤退を残念がった。

別府市の地場CD店「エトウ南海堂の江藤 一郎店長は「専門店が近くになくなること、音楽から離れてしまっている。音楽文化が薄くなってしまうのでは」と懸念している。

（佐藤由佳）